

ズームアップ経済統計

SDGs達成に向け、
日本に求められる取組み(持続可能な開発ソリューション・ネットワークほか
「Sustainable Development Report 2019」)大和総研 金融調査部SDGs「ンサルディングス室
主任研究員

依田 宏樹



国連の持続可能な開発ソリューション・ネットワークと独ベルテルスマン財団は2019年6月、世界の国々のSDGsの達成状況を取りまとめた「Sustainable Development Report 2019」を公表した。これによると、SDGsの達成度を総合的に評価した国別のランキングにおいて、日本は調査対象となる162カ国中15位(78・9点)だった(昨年も同様の15位)。首位はデンマーク(85・2点)、2位がスウェーデン(85・0点)、3位がフィンランド(82・8点)と、昨年に引き続き北欧諸国が上位3位を占めたほか、多数の欧州諸国が上位にランクイン

する結果となった(上位30カ国のうち26カ国が欧州)。日本におけるSDGsの達成状況を目標ごとに見ると、「達成」と評価されたのは目標4「質の高い教育をみんなに」と同9「産業と技術革新の基盤をつくろう」の二つのみだった(図表)。前者では初等教育就学率や中等教育完了率、後者ではモバイルブロードバンド契約率や研究開発費(対GDP比)などが評価されている。一方、「深刻な課題あり」とされたのが、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」、同12「つくる責任 つかう責任」、同13「気候変動に具体的な対策を」、同17

「パートナーシップで目標を達成しよう」の四つである。目標5では国会議員の女性比率や男女間賃金格差、同12では一人当りの電気電子機器廃棄物の量、同13では一人当りのエネルギー関連CO₂排出量、同17では金融取引の秘匿性などが低い評価につながった。OECD加盟国と比較すると、目標12と13は日本に限らずいずれの国でも達成度が低い一方、目標5は日本の達成度が著しく低く、欧州などの取組みに学ぶところがありそうだ。

日本における各目標に対する傾向を見ると、達成とされた目標4と9に加え、目標6「安全な水とトイレを世界中に」と同8「働きがいも経済成長も」が「順調もしくは達成を維持」と評価された。その一方で、「相当な課題あり」とされた目標10「人や国の不平等をなくそう」は「低下」と評価された。低下とされたのは、所得格差を示すバルマ比率(上位10%の所得層が得ている所得と下位40%の所得の比率)や高齢貧困率の悪化が原因である。このほか、「深刻な課題あり」とされた目標5と13や、「相当な課題あり」とされ

目標別に見た現状評価と傾向 (2019年)

〔図表〕

現状評価	目標	傾向	目標
達成 (SDG achieved)	4、9	順調もしくは達成を維持 (On track or maintaining SDG achievement)	4、6、8、9
課題が残る (Challenges remain)	1、3、6、8、16	適度に改善 (Moderately improving)	1、2、3、7、15、16、17
相当な課題あり (Significant challenges)	2、7、10、11、14、15	停滞 (Stagnating)	5、13、14
深刻な課題あり (Major challenges)	5、12、13、17	低下 (Decreasing)	10

(注) 目標11と12は傾向が示されていない。

(出所) Sustainable Development Solutions Network, Bertelsmann Stiftung “Sustainable Development Report 2019, Transformations to Achieve the Sustainable Development Goals includes the SDGs Index and Dashboards” から大和総研作成。

た同14「海の豊かさを守ろう」は「停滞」と指摘された。15年9月に国連でSDGsが採択されてから約4年が経過し、30年の目標達成まで残り11年となった。達成度にも多くの課題がある目標や改善傾向の見られない目標につき、早急に具体的な取組みを進めていくことが求められる。